

福島県支部

経営におけるイノベーションとは何か～求められる合成と触媒～

今年度の調査研究事業は、「経営におけるイノベーションとは何か」をテーマとして、福島県支部の設立 25 周年記念セミナーと連携して行った。第 1 章では、県内で革新的な経営を行っている 3 名の経営者に講演をいただいた支部 25 周年記念セミナーの講演録および診断士の視点からの書評、第 2 章では統計資料から見た福島県民像の分析、第 3 章ではシェンペーターの理論を一つの切り口として、また第 1・第 2 章を受けた経営におけるイノベーションの考察、第 4 章では触媒としての診断士の役割について考察している。

第 1 章 講演録及び書評

駒形氏の講演から感じられるのは、貪欲な知識欲と強力なネットワークの構築である。氏は、文系出身ながら機械装置の開発等理系分野についても強い好奇心をもって取り組んでいる。また、「自社と取引先の共存共栄を追求する思想」を基本コンセプトに強力なネットワークを構築してビジネスプロセスをイノベーションし、自社の弱みを補完している。

大橋氏の講演から感じられるのは創業者である父親に対する敬愛の念と、食に携わる企業家として日本人の健康に対する責任感である。氏は、創業者の事業を最大限尊重し、未来永劫引き継ぐため、「身土不二」「一物全体」という経営理念を実現するために世間の批判を受けながらも給食パン事業から撤退し、「地ぱん」事業に進出した。信念と情熱をもって「地ぱん」事業に取り組むことで、全国に協力者が現れ、新結合が発生している。

氏は、四国でグリーンピアの再生も請け負った経歴をもつサラリーマン経営者である。経営のプロとして、よそ者の視点から常識にとらわれることなく強い情熱をもって、職員の意識改革に重点を置いて革新に取り組んでいる。また、氏の招聘については、診断士が触媒として重要な役割を果たしていることもポイントとなっている。

第 2 章 統計資料から見た福島県民像

福島県新長期総合計画等の統計資料から福島県民像を想像すると、「豊かな自然（農業）と恵まれた立地（工場進出）から自ら変革しなくとも一定の生活水準は維持できたためイノベーションを起こす気概にやや欠けているのではないか」と考えられる。

第 3 章 経営におけるイノベーション

今、県内経済を含む日本経済を取り巻く環境が大きく変わっているなかで、イノベーションを起こし、自ら変革しなければ生き残っていくことはできない。イノベーションを起こしにくい県内経済においては、触媒としての診断士の役割は非常に重要である。

第 4 章 触媒としての診断士の役割

企業経営者が「企業支援者」のアドバイスを求める場合、自社に最適と思われる支援者を選択する。我々診断士も選ばれ、もてる知力を十分に発揮できるように日々自己研鑽に励み、経営者のニーズに合致した資質を身につけておかなければいけない。